特別講演:　京都大学における教育の現況　　淡路敏之理事・副学長(M:S47/②)

どこかの進学塾の宣伝のごとく、なんで私が理事に？と悩みましたが、教育に関してこれまでに山積した問題の解決に尽力してほしいとのことでお引き受けさせていただきました。京大広報No.665(2011年3月)に5千字ほど書かせて頂きましたが、危機に瀕してもなかなか動けないなあというのが実感です。あまりにもいろいろな所でコントロールが効くようなシステムになっているようです。

近年、高校の学習指導要領は年々変化し、最近では理科の必修は11科目中2科目、社会は9科目中3～4科目という、多くの教員が受けたであろう従前の高校におけるgeneral educationとは異なる高校教育下での世代が入学してきます。一方、本学における履修は伝統的に学生任せのアラカルト方式が主で、全学部を対象に行ったキャンパスミーティングの結果、現代社会の市民性に求められる知識基盤の形成に必要な基礎科目、文系・理系に共通の科学リテラシーを学んでいないという学生がかなりの割合を占めることが判明しました。同様なことはアメラグ部の監督からも聞きました。同部の新入生への勧誘は以前、乱暴とも見えるものでしたが、今では学生の下宿を1軒1軒回るというアパートローラー作戦で行っており、その結果、多くの新入生は「部などには入らずゆっくりしたい」という状況で、志を感じられないとのことです。これは女子についても同じです。大学へ入っても伸び代が無い。背景には高校までの受験勉強にあるようですが、突き詰めれば、そのもとは大学の入試方法にあるので、改善策を考えないと歴史に汚点を残すというのが監督のご意見でした。松本総長も同様のお考えで、地頭が良く、受験の垢に染まっていない人を数多く入学させ(例えば定員の3倍)、勉強しない学生は別の方向に進んでもらうのがよいと言われますが、文科省は定員と充足率を守る(定員の90～100%)ことを課している状況です。

最近は「こうであった筈だ」と言うことが多くなりました。理事就任後の全学部キャンパスミーティングで、理事補や高等教育研究開発推進機構の方々とともに吉田地区や桂地区を回り、数々の学生と意見交換をしました。その結果、全く授業に出なくて単位がとれる科目が(しかも相当数)あるようです。人文社会系のA群と自然科学系のB群をつなぐ学際科目群としてAB群ができましたが、どういうわけかほぼA(B)群なのにAB群とする先生がおられるようで、学生は阿吽の呼吸で自然科学系(人文系)が苦手ならばB(A)群として単位取得をしているようです。このような教育では、京大が掲げる全人教育の実施どころか、専門学校の集まりのようになってしまいます。これでは自学自習は即、放し飼いと言われても仕方ありません。ライオンは子供を谷に落とし、上がったものだけを育てるといわれますが、今の京大ではそれは通用しません。中・高校までの教育を踏まえた実効的な教養教育を行わないと「全人教育による地球社会の調和ある共存に貢献」という学是は掛け声倒れに終わりかねません。

最後に、評価の高い教育の取組例をご紹介します。尾池元総長がはじめられた新入生対象の「ポケゼミ」(正式には少人数ゼミナール)は、研究型大学である京大ならではの教育企画として学生や進学校からも歓迎されています。これは、各教員のスピリッツのもと、調査、検討、まとめ、発表という一連の作業に学生が主体的に取組む、あるいはハードな講義を半年間みっちり受けるという、寺子屋方式のボランタリー授業で、研究型大学ならではの高いレベルの自学自習の体得と高校までの学びの質からの転換を図り、学びのmotivationを高めるという、教育の一環です。どうすれば自ら志すcarrier

の道を歩めるのか、歩んでいるのかを意識して（通常なら）4年間の学習に向かっていただければと願っています。

今後は、グローバル社会で活躍できるよう、専攻科目と英語をpackageにした教育を推進しようと企画しつつあります。学際的視野を育てる必要もあります。現在、大学院において研究科横断的に、特定のテーマの構成要素に関するオムニバス方式の講義等を行う等、大学院教育の改革を進めています。

ともかく任期中にベースキャンプまでたどり着きたいと考えていますが、どこまでできるかと問われると予測不可能な状態です。皆様方のご支援ご協力をお願いする次第です。

・松本総長がブータンとの提携を結ばれたとのニュースを聞いたが、どのような内容か？

（淡路）よくは知りませんが、多分、生存圏研究所を中心とした「京都大学―ブータン友好プログラム」のことではないかと思います。

・リーディング大学院という計画は何か？

（淡路） 1，2，3型がありますが、1型は現場の課題をグローバルな視野を持って解決し、かつ先を見据えた対応が可能なトップクラスの実務型エリートを養成する大学院で、欧米のように学寮を備え、教員・学生が不断に相互討論できる新タイプの教育組織です。